



平成21年5月26日

各 位

会 社 名 株式会社フライングガーデン
代 表 者 名 代表取締役社長 野沢八千万
 (JASDAQ・コード 3317)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取締役財務部長 片柳紀之
 (T E L : 0 2 8 5 - 3 0 - 4 1 2 9)

(訂正)「平成21年3月期 決算短信(非連結)」の一部訂正について

平成21年5月11日に発表いたしました、「平成21年3月期 決算短信(非連結)」の一部に誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。

なお、数値データにつきましては訂正はありません。

1. 訂正箇所

24 ページ (9) 注記事項 (損益計算書関係)

2. 訂正内容（訂正部分には下線 を付しております。）

【訂正前】

（損益計算書関係）

前事業年度 (自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 3 月 31 日)				当事業年度 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 21 年 3 月 31 日)			
<p>※1 減損損失</p> <p>当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p>				<p>※1 減損損失</p> <p>当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p>			
場所及び用途		種類	金額(千円)	場所及び用途		種類	金額(千円)
埼玉県	2 店舗	建物	91,031	埼玉県	7 店舗	建物	379,798
茨城県	3 店舗	構築物	13,112	茨城県	7 店舗	構築物	64,818
千葉県	1 店舗	器具備品	3,913	千葉県	4 店舗	器具備品	21,988
		その他	5,990	群馬県	2 店舗	機械及び装置	12,894
		リース資産	23,723	栃木県	2 店舗	長期前払費用	<u>14,124</u>
						借地権	19,528
						その他	<u>5,257</u>
						リース資産	55,633
<p>当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としたグルーピングを行っております。</p> <p>店舗について営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 137,771 千円を減損損失として特別損失に計上しており、その内訳は上記の通りであります。</p> <p>なお、当資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを 2% で割り引いて算定しております。</p>				<p>当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としたグルーピングを行っております。</p> <p>店舗について営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 574,044 千円を減損損失として特別損失に計上しており、その内訳は上記の通りであります。</p> <p>なお、当資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを 3.5% で割り引いて算定しております。</p>			

【訂正後】

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 3 月 31 日)				当事業年度 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 21 年 3 月 31 日)			
<p>※1 減損損失</p> <p>当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p>				<p>※1 減損損失</p> <p>当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p>			
場所及び用途		種類	金額(千円)	場所及び用途		種類	金額(千円)
埼玉県	2 店舗	建物	91,031	埼玉県	7 店舗	建物	379,798
茨城県	3 店舗	構築物	13,112	茨城県	7 店舗	構築物	64,818
千葉県	1 店舗	器具備品	3,913	千葉県	4 店舗	器具備品	21,988
		その他	5,990	群馬県	2 店舗	機械及び装置	12,894
		リース資産	23,723	栃木県	2 店舗	長期前払費用	16,105
						借地権	19,528
						その他	3,276
						リース資産	55,633
<p>当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としたグルーピングを行っております。</p> <p>店舗について営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 137,771 千円を減損損失として特別損失に計上しており、その内訳は上記の通りであります。</p> <p>なお、当資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを 2% で割り引いて算定しております。</p>				<p>当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本としたグルーピングを行っております。</p> <p>店舗について営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 574,044 千円を減損損失として特別損失に計上しており、その内訳は上記の通りであります。</p> <p>なお、当資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを 3.5% で割り引いて算定しております。</p>			

以上